

保護者・地域の皆様
関係諸機関の皆様

平成27年度 学校づくりの方針

練馬区立上石神井北小学校
校長 市川 順 康

1 目指す学校

「和」を基盤とした教育活動を展開する学校

「和」人間的な心の調和のとれた児童の育成を目指す

(人権感覚を豊かに、偏見、差別、いじめ、体罰を生まない、見過ごさない、許さない)

「和み」心穏やかに、楽しく学校に通い、学ぶ、児童の心身の成長を目指す

(カウンセリングマインドを生かした生活指導で、不登校児童、配慮の必要な児童を育成)

「和(環)」P D C Aサイクルを生かした授業改善で学力向上、体力向上を目指す

(学習指導法の工夫に常に取り組み、児童の学力向上、体力向上の実感のある学習)

「和(輪)」保護者、地域の方々との密接な連携による教育活動の充実を目指す

(コミュニケーションを密にした、教職員との協働による児童の健全育成)

(1) 子供たちの可能性を引き出し、学校に通う楽しさや喜びを十二分に味わえる学校

子供たち一人一人が成長していることを実感でき、自分が学びで得た良さを体感できることが大切です。教育活動の中で、指導法の工夫に積極的に取り組み、子供たちの成長を常に考えていきます。特に、配慮の必要な生徒への指導については、研修成果、研究成果を生かした指導方法を学校全体で共有していきます。

(2) 教職員一人一人が自己の能力を最大限に発揮し、存在感を持って職務にあたる学校

教職員は、教職のプロという自覚を持ち、研修と修養に努め、子供たちのために最高の学習環境と学習内容を準備していくことが必要です。それぞれが、教科指導、生活指導、分掌に応じて、組織としての職責を果たしていきます。また、小中一貫教育の研究と修養を生かした学習指導法の工夫に積極的に取り組みます。

(3) 安心・安全で危機管理の整備された学校

学校が、常に安心で安全な環境であるように、日頃から施設の管理、緊急時の対応を心がけ、非常時には、学校全体で対応できるように準備し、地域の防災拠点としての役割を果たせるようにしていきます。

(4) 特別支援教育の充実と教育相談を重視した学校

教職員一人一人がカウンセリングマインドを醸成し、教職員や子供たちのためになる教育相談の充実を目指します。教職員同士、また、カウンセラーや学校生活支援員、心のふれあい相談員など積極的に活用して、子供たちの心の成長を支えていきます。

(5) I C T を有効活用した校務改善を目指す学校

教育活動や校務における I C T を有効活用し、子供たちに最新の学習環境を整備し、学習に生

徒の興味、関心をもたせたり、校務の円滑な処理を可能にしていきます。特に、学校システム（C4t h）を最大限に活用し、事務の効率化を目指します。

(6) 保護者、地域の方々、近隣小中学校、保育園、幼稚園等、関係諸機関と、より深い連携がとれる学校

学校だよりや学校ホームページを最大限に活用し、保護者、地域の方々、関係諸機関とのより深い協働により、より深く、高度な教育課題を解決することができる学校として、児童の健全育成を目指していきます。

(7) 特別支援学級「知的障害学級（みつば学級）」と通常学級の連携を積極的に進める学校

平成22年4月に開設された、知的障害学級（みつば学級）と、学校、学級の行事や授業等の交流を通して人間関係を広げ、集団生活によりよくなるように指導法の工夫に取り組みます。

(8) 東京都福祉保健局、東京都石神井学園との「連携型専門ケア機能モデル事業」による「自閉症・情緒障害学級」開設に向けて取り組む学校

平成27年10月に、東京都石神井学園内に、固定式の特別支援学級、練馬区立上石神井北小学校自閉症・情緒障害学級が開級されます。障害特性に応じた教育課程を編成し、各教科、自立活動の指導法の工夫に取り組みます。

2 目指す授業

「自分の思いや考えをもち、学習する児童の育成」

～国語科「書くこと」を通して～

学習指導要領では、「国語をはじめ各教科等で記録、説明、批評、論述、討論などの学習を充実」することが求められています。小中連携の観点からも、地区の中学校との研究、研修の機会を活用して、このような言語能力の向上のための学習活動に積極的に取り組みながら、以下のような授業を目指していきます。

(1) 確かな学力の向上を目指す

子供たちに、一時間一時間の授業を大切にさせ、学習事項の確実な定着を目指します。

(2) 基礎・基本を確実に習得させる

学習内容の精選と反復学習など、指導法の工夫により、基礎、基本を確実に身に付けさせ、自信と意欲につなげます。

(3) 少人数教育の充実

3年生から6年生までの算数の基礎、基本の定着のために、平成17年度より少人数授業を実施しています。実施学年の教員と連携しながら、きめ細やかな指導と評価を目指し、学力の向上を目指します。

(4) 外国語活動の充実

5年生、6年生の外国語活動の充実を目指します。いままでの学習指導の蓄積を基にした、ALTを積極的に活用した授業を展開できるようにします。

(5) 「教える（習得させる）学校」と「学ばせる（活用・発展へとつなげる）学校」

学びには、「しっかり学ぶ」「学んだことを生かす」という二面があります。身に付けた知識を子供たちが自分の生きる力に変えていく方法も含め、指導法の工夫に積極的に取り組み、指導していきます。

3 更に開かれた学校へ

「和（輪）」保護者、地域の方々との密接な連携による教育活動の充実を目指す

(1) 教員間、学年間のチーム力、組織力が結集する学校

一人一人の教職員の個性や特性を生かしながら、学年、分掌組織のコミュニケーションを一層図り、組織対応を心がけます。全教職員が、活力ある学校経営を推進するために、「報告・連絡・相談・記録」を日常的に行い、子供たちの学習環境、学習状況を把握し、教職員全員で共有化を図ります。

(2) 練馬区小中一貫教育研究グループとして、関係小中学校との連携を一層深める学校

小中学校9年間にわたる、一貫した教育課程の編成に向けて、研究を充実させます。

(3) 保護者、地域との関わりを大切に全教職員が情熱と英知を結集して協働する学校

公立学校は、地域の学校です。地域の中にあり、地域と共にあり、地域に支えられている学校です。上石神井北小学校とさまざまな関わりをもつ団体や、保護者、地域の方からの信頼に、応える学校であるために、積極的に「関わり」をもち、共に連携して子供たちの健全育成を目指しましょう。